

## 三つのポリシー

### 【札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部】

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 高等学校の幅広い学習内容を習得し、さらに高等教育機関で学修を継続することに強い意欲を持っていること。</li><li>2. 社会に目を向ける広い視野を有し、自身の専門を活かして社会に貢献しようという目的意識を持っていること。</li><li>3. 多様な価値観・視点を受け入れる柔軟な精神を有し、多様な人々と協働していく姿勢を備えていること。</li><li>4. 各学部での学修に求められる基礎的な学力およびスキルを有していること。</li></ol>
カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 建学の精神を学び、自己と他者の命を尊重し、豊かな情操を身につけ、知徳の陶冶を図ります。全学共通の初年次教育を通じて、伝える力を身につけます。</li><li>2. 社会に対する広い視野を持ち、多様な価値観に配慮できる豊かな人間性を身につけるために全学共通科目を配置します。特に、伝える力を中核とするコミュニケーション能力の育成のため、全学共通の初年次教育科目を配置します。また、自らの専門領域を深く学ぶと同時に、様々な領域への理解を深めるために、副専攻制度を配置します。さらに社会人として生き抜く実践力を育成するために、キャリア支援科目を配置します。</li><li>3. 学科・専攻・コースごとに必要な基礎教養と基礎能力の定着を図り、社会に対する視野を広げるとともに、社会人としての基礎的な能力育成及び諸分野において必要な創造性の基盤となる態度を身につけるため、初年次教育科目や学部共通科目、大学共通科目を配置します。</li><li>4. 必要な基礎的能力を身につけるとともに、学科・専攻・コースごとにより高度な専門的知識を深めるための専門科目を設置します。各専門領域の知識を深めるとともに、コミュニケーション能力や課題解決能力を身につけ、社会に生きる専門的職業人としての自覚を促します。</li><li>5. 必要な基礎能力の充実と応用を図るために、これまでに修得した基礎技能や知識教養を統合させながら、学科・専攻・コースごとに専門性の高い専門的教養を深めます。専門的技能と経験をより広い社会的文脈で理解し、専門的職業人としての自己像を形成するために必要な専攻科目を配置します。</li><li>6. 少人数制の教育を基本とし、学科・専攻・コースごとに、個人レッスンや演習、ボランティア活動、フィールドワーク、インターンシップ等の体験型科目を配置します。大学での学修内容と実社会とのつながりを認識できる機会を提供します。</li><li>7. それぞれの専門分野に応じた卒業研究、卒業演奏、卒業制作、卒業論文を通じて、自己の課題を発見・解決し、学修成果を統合します。そして、自立した自己像を確立し社会に向けて自己を発信する実践力を養います。</li><li>8. それぞれの専門ごとに、自己のテーマに向き合い、問題を発見・解決をしながら、独創的かつ柔軟に取り組める実践力を身につけることを最終目標とし、ディプロマ・ポリシーに沿った社会に求められる素養を身につけます。</li></ol>
ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 主体的に目標を貫徹する力（自律性） 自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。</li><li>2. 社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性） 社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。</li><li>3. 多様な価値観・個性を受容し、共に努力し合える能力（協調性） 自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。</li><li>4. 社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル） コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。</li><li>5. 専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。</li></ol>

【札幌大谷大学 芸術学部 音楽学科】

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

芸術学部音楽学科では、北海道における4年制の高等教育研究機関として、創作・教育・研究・応用に関わる幅広い学びの分野を設け、将来は、音楽を通して幅広く社会貢献できる人材の育成をめざしています。そのために本学科では、西洋音楽の伝統を通して培われた専門的な技術と知識を修得するとともに、さまざまな合奏・アンサンブル・集団セッションや美術学科との共同制作を通して、創造的なコミュニケーション能力と協働性を発展させます。

さらに、これらの知識と技術が生きた経験に結びつくように、外部での発表や実習の機会を通して専門的な能力を活用し、さまざまなニーズに応じて社会に貢献できる能力を向上させます。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

1. 建学の精神を学び、自己と他者の命を尊重し、豊かな情操を身につけ、知徳の陶冶を図ります。
2. 社会に対する広い視野を持ち、多様な価値観に配慮できる豊かな人間性を身につけるために全学共通科目を配置します。特に、伝える力を中核とするコミュニケーション能力の育成のため、全学共通の初年次教育科目を配置します。また、自らの専門領域を深く学ぶと同時に、さまざまな領域への理解を深めるために、副専攻制度を配置します。さらに社会人として生き抜く実践力を育成するために、キャリア支援科目を配置します。
3. 1年次は音楽家としての基礎教養と基礎能力の定着を図るとともに、社会人としての基礎的な能力育成のために初年次教育科目や大学共通科目を配置します。また、芸術の基礎的な態度を養うために学部共通科目を配置します。
4. 2年次は基礎的な技能の充実を図るとともに、より高度な音楽理論、音楽史、音楽文化に対する知識を深める科目を設置します。これらを通じて、社会に生きる音楽家としての自覚を促します。
5. 3年次は、基礎能力の充実と応用を図ることをねらいとします。1、2年次に養われた基礎技能や知識教養を活かし、芸術的表現力や感性を豊かなものとします。また、より専門性の高い芸術的教養を深めることで、専門的技術と経験をより広い芸術的文脈で理解させ、演奏家、研究者、教育家などの自己像を形成します。
6. 4年次は、それぞれの専門分野に応じた卒業研究を通じて、自己の課題を発見・解決し、学修成果を統合します。そして、自立した自己像を確立し、ディプロマ・ポリシーに沿った社会に向けて自己を発信する実践力を養います。
7. 正統的な演奏技術の教授や実践的なスキルの育成を実現させるために、専門的な領域においては個人レッスンまたは、少人数制の教育を基本とします。また、授業及び授業外において、学生の修学のための支援を行います。
8. 学生の技術の進捗や資質に応じて課題を設定します。授業以外の活動として、各種演奏会、インターンシップやボランティア活動などに参加する機会を通じて、大学での学修内容と実社会とのつながりを認識できる機会を提供します。

ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

1. 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
2. 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
3. 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
4. コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
5. 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

【札幌大谷大学 芸術学部 美術学科】

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

芸術学部美術学科では、ファインアートやデザイン・メディア表現に関わる創作・教育・研究の各領域における分野において、北海道ひいては我が国の芸術・文化に寄与貢献できる人材の育成をめざしています。本学科ではとりわけ美術の専門教育を通し、手仕事の確かさを尊重し、作品が完成に至るまでの忍耐力や技術を磨き、表現の礎を築きます。

デザイン・メディア系列の授業では時代趨勢に敏感であり、独自の美意識とオリジナリティを発展、向上させていく能力を養います。また、他学科との共同制作を通し、公共性と協調性を持ちながら課題を解決していく能力など、卒業後の社会で求められるさまざまな状況に対応できる才能を育みます。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

1. 建学の精神を学び、自己と他者の命を尊重し、豊かな情操を身につけ、知徳の陶冶を図ります。
2. 社会に対する広い視野を持ち、多様な価値観に配慮できる豊かな人間性を身につけるために全学共通科目を配置します。特に、伝える力を中核とするコミュニケーション能力の育成のため、全学共通の初年次教育科目を配置します。また、自らの専門領域を深く学ぶと同時に、さまざまな領域への理解を深めるために、副専攻制度を配置します。さらに社会人として生き抜く実践力を育成するために、キャリア支援科目を配置します。
3. 1年次は美術のみならず社会に対する視野を広げ、芸術文化の諸分野において共有される創造性の基盤となる態度を身につけるため大学共通科目を配置し、また美術の基礎的な態度を養うために学部共通科目を配置します。
4. 2年次は社会的文脈の中で美術・デザインへの知識を深めます。多様な造形・メディア表現の基礎的技術を身につけ、美術・デザインの基礎教養と基礎能力の定着を図るため、芸術学部美術学科専門科目を配置します。
5. 3年次は、これまで修得した知識と技術を統合させながら、美術家、デザイナー、クリエイター、研究者、教育者などの自己像の形成を図り、かつ職業人として必要なコミュニケーション能力を身につけるため、芸術学部美術学科専攻科目を配置します。
6. 4年次の卒業制作では、自己のテーマに向き合い、問題を発見・解決をしながら、独創的かつ柔軟に取り組める実践力を身につけることを最終目標とし、ディプロマ・ポリシーに沿った社会に求められる素養を身につけます。
7. 美術の専門的知識の修得に加え、実践的なスキルを育成するために、少人数制を基本とし、コミュニケーションを重視しながら授業及び授業外において、専門的な修学のための支援を行います。
8. 学生の技術の進捗や資質に応じて課題を設定し、学生個別に一貫した指導を行います。授業以外の活動として、展覧会への出品やインターンシップ、ボランティア活動など、大学での学修内容と実社会とのつながりを認識する機会を提供します。

ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

1. 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
2. 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
3. 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
4. コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
5. 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

【札幌大谷大学 社会学部 地域社会学科】

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

社会学部地域社会学科では、地域社会の内発的な発展を担う人材を育成することをめざしています。そのために、本学科では、社会学の諸分野における専門的知識を修得するとともに、地域社会への参加および調査を中心とした学びを通じて、主体的に課題を発見していく能力、課題解決に向けて貢献する姿勢、多様な人びとと協働して目的達成に取り組むマネジメント能力などの能力や資質を発展・向上させます。また、人間関係や社会のしくみへの洞察力、専門的知識をニーズに応じて活用していける応用力、コミュニケーション能力や社会性など、卒業後の社会で求められる汎用的な能力を向上させます。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

1. 建学の精神を学び、自己と他者の命を尊重し、豊かな情操を身につけ、知徳の陶冶を図ります。
2. 社会に対する広い視野を持ち、多様な価値観に配慮できる豊かな人間性を身につけるために全学共通科目を配置します。特に、伝える力を中核とするコミュニケーション能力の育成のため、全学共通の初年次教育科目を配置します。また、自らの専門領域を深く学ぶと同時に、さまざまな領域への理解を深めるために、副専攻制度を配置します。さらに社会人として生き抜く実践力を育成するために、キャリア支援科目を配置します。
3. 社会人として求められるコミュニケーション能力や課題解決能力を育成するため、言語表現及び情報処理関連科目を配置します。
4. 北海道に根づく職業人として欠かせない、国際性や地域性の視点を育成するため、北海道並びに国際社会への理解を深める科目を配置します。
5. 現代社会の仕組みを理解する力を育成するため、社会の成り立ちや人間関係について学ぶ科目を配置します。
6. 地域社会や現代社会の現状を多角的に捉えて課題解決を図る姿勢を体系的に育成するため、マネジメント・行政・福祉・まちづくりに関する科目群をそれぞれ配置します。
7. 地域社会の課題を発見したり分析したりする力を育成するため、社会調査スキルを体系的に修得する科目群を配置します。
8. さまざまな人々と協働していく社会性を育成するため、演習、フィールドワーク、インターンシップ等の体験型科目群を配置します。
9. 4年間を通じて授業内外での学生の修学を支援するため、担任制度と連動したゼミ科目（基礎演習、専門演習）を配置します。

ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

1. 主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができず。（自律性）
2. フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
3. 地域社会の企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験を通して、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
4. コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
5. 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

【札幌大谷大学短期大学部 保育科】

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

札幌大谷大学短期大学部保育科では、幼児教育・保育に関する理論と実践のための技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得した感性豊かな保育者を養成します。その中で特に、各々の関心に基づく得意分野を持ち、学んだことを保育の現場で活かすことのできる実践力を身につけることを重視しています。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

保育者になるために必要な専門的知識・理論・技術を習得するために、2年間のカリキュラムの中に講義・演習・実習を段階的に配置しています。そして、その繰り返しの中で学生自らが課題を発見し、次の学びにつなげていけるように支援します。学修課程の内容は以下の通りです。

1. 建学の精神及び仏教保育（真宗保育）について学びます。
2. 教養科目において、豊かな人間性と社会人としての基礎的教養を身につけます。特に、全学共通の初年次教育科目において学びの基礎力を養います。
3. 幼児教育・保育に関する理論と実践するための技術を修得します。
4. 保育者となるために必要な、子どもの成長・発達についての専門的知識を学びます。
5. 様々な実習を通して、理論と実践の結合を図るとともに、幼児教育・保育の諸課題に対応できる実践力を養います。
6. 本学独自の科目を通して、感性を豊かにすることを目指しながら各々の関心に応じて深く学び、得意分野を持ちます。

ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

1. 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。
2. 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。
3. 社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。
4. 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。

【札幌大谷大学短期大学部 専攻科保育専攻】

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

札幌大谷大学短期大学部専攻科保育専攻では、幼児教育・保育に関する理論を自分なりに理解し、実践のための高い技術と子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を身につけた感性豊かな保育者を養成します。その中で特に、各々の関心に基づく得意分野に磨きをかけ、保育の現場でリーダーシップを発揮できるような実践力を身につけることを重視しています。さらに、論理的思考力や的確な文章表現力も養います。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

短期大学において学んだ保育者としての専門的知識・理論・技術をさらに深めるための課程編成を行っています。特に1年次には実習科目が多く配置されており、すでに取得している保育者の資格を活かして学びます。また、2年次には修了研究を行い、今までの学修の総まとめとなる論文を執筆します。学修課程の内容は以下の通りです。

1. 建学の精神である仏教の思想や文化に対する理解をさらに深めます。
2. キャリア教育・語学教育を深め、豊かな人間性と社会人としての教養を身につけます。
3. 幼児教育・保育に関する理論の意味を自ら考え、実践に役立てます。
4. 子どもの成長・発達に関わる専門的知識の幅をさらに広げ、深く学びます。
5. 附属幼稚園等での実習を通して、幼児教育・保育の専門家としての実践的スキルを高めるとともに、現場での問題を把握し、自ら解決する方略を考えます。
6. 各々の得意分野をしっかりと確立して高い技術を身につけるとともに、感性を磨き、子どもとの関わりに活かします
7. 短期大学を含めた4年間の学習をもとに修了研究を行い、論文にまとめます。

ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

1. 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。
2. 幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。
3. 社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。
4. 各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。
5. 一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。